

神奈川県営水道事業経営計画の中間点検結果（概要版）

「神奈川県営水道事業経営計画」について、令和3年度は計画期間の中間年となることから、計画期間後半の取組を効果的に進めるため、財政収支見通しの検証を含め中間点検を実施しました。

1 主要事業の取組について

(1) 令和3年度までの取組状況

主要事業（14事業）のうち、「国際社会への貢献」を除いた13事業について「順調」と評価しました。

「国際社会への貢献」については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、技術協力を行っているベトナム国ランソン省への渡航が制限されたことから「遅れ」と評価しました。

(2) 令和4年度以降の取組の方向性

計画策定後、大型台風の被害による大規模断水の発生や新型コロナウイルス感染症の拡大のほか、労務単価の上昇や設計積算基準の改訂などにより工事費用が大幅に上昇するなど、経営環境に大きな変化が生じています。

このため、計画策定後の変化を踏まえ、計画を前倒して揚水ポンプ所の浸水や停電対策などに取り組むとともに、計画目標の達成に向けて、デジタル技術を活用して業務の効率化や最適化を図るなど、更なる事業運営の工夫を図りながら主要事業を着実に進めていきます。

2 財政収支見通しについて

(1) 水道料金収入の動向

コロナ禍における水道使用の変化により、家事用の水道使用量は計画値を上回る見込みであることなどから、計画期間後半の水道料金収入は、計画額を上回ると見込まれるものの、給水戸数の伸びの鈍化や小家族化等により減少傾向で推移する見通しです。

(2) 建設改良事業費の動向

計画期間後半の建設改良事業費は、施工方法の見直し等による工事費縮減の取組を行ってもなお増加幅が拡大し計画額を上回って推移する見通しです。

(3) 財政収支見通しの検証

ア 令和2年度までの決算状況

収益的収支では、計画額を上回る利益剰余金を確保し、資本的収支では、新規借入額を25億円抑制する対応などを実施した結果、令和2年度末における資金残高は173億円となり、計画額（121億円）を上回っています。

イ 令和3年度以降の見通し

収益的収支では、収入は減少傾向で推移する一方、支出の増加が避けられないと見込まれることから、令和3年度以降の各年度の利益剰余金は計画額を下回る見通しです。

資本的収支では、建設改良事業費の大幅な増加に対する財源対策として、令和4年度当初予算（案）では、新規借入額を計画額より10億円増額し190億円としました。

計画最終年度の令和5年度末の資金残高は25億円となり、計画額（54億円）を大幅に下回る見込みであり、今後、令和3年度の決算状況を踏まえながら財源対策を検討していきます。

検証後の財政収支見通し

(単位 億円)

科目等		年度	令和元年度 (決算額)	令和2年度 (決算額)	令和3年度 (予算現額)	令和4年度 (予算案)	令和5年度 (見通し)
収益的 収支	収益的収入		592	580	610	604	602
	うち水道料金収入		516	504	527	523	522
	収益的支出		526	531	568	564	569
	当年度損益		51	34	23	17	10
資本的 収支	資本的収入		153	133	164	193	183
	うち企業債等借入金		150	130	160	190	180
	資本的支出		343	314	389	390	416
	うち建設改良事業費		196	179	258	261	284
	資本的収支差引額		△ 190	△ 181	△ 225	△ 197	△ 233
資金残高			184	173	124	91	25
借入金残高			1,478	1,473	1,503	1,564	1,612